

## 大山街道八王子道ウォーク

### 第12回 水郷田名バス停からリコー前バス停 (計画)

集合 JR相模原駅南口 午前8時55分

歩行距離 約10km

### 第12回 水郷田名バス停からリコー前バス停

実施日 2022 (令和4) 年10月12日 (水) 天候 曇り

参加者 折本 文雄、前北 勝司、伊藤 泰弘、中島 征雄 計 4名

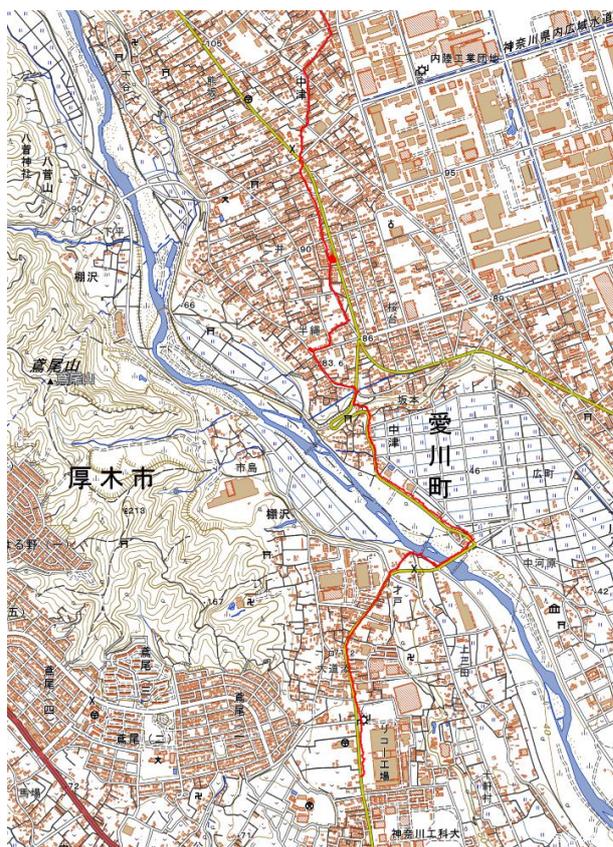
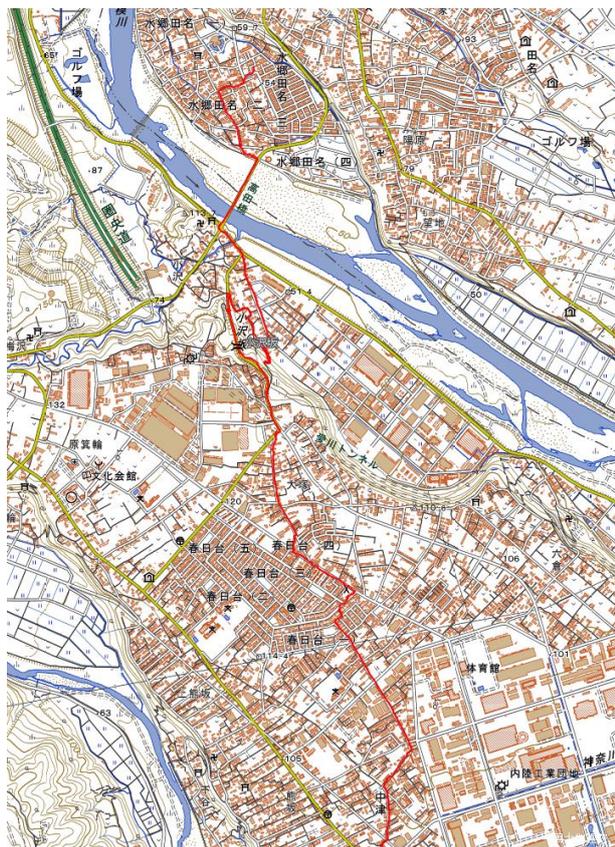
コース 相模原駅南口バス停5番乗り場9時35分→10:03水郷田名バス停10:10～田名の花街跡～大鷲神社～10:22鮎供養塔・久所〈ぐそ〉の渡し石柱～10:24高田橋 (久所の渡し) 10:30～地藏尊～10:35旧街道小沢坂～10:57新道小沢坂～10:59小沢城址解説板 (小休憩) 11:05～馬頭観音～11:18大塚丁字交差点・大塚の地藏尊・道標～11:29春日通り《街道消滅》～《街道》～一本松交差点12:00～12:08ガスト (昼食) 12:57～石仏・石柱～13:08中津半繩石仏群13:11～13:15排水路橋～13:16坂本坂13:24～13:36才戸橋13:40～道標・才戸の渡し石柱～鳶尾東入口交差点～14:04リコー前バス停→本厚木駅

写真は2019 (令和元) 年11月17日、12月3日、12月15日の下見時と本日のものを使用。  
GPS

歩行距離: 9.6km。累計歩行距離 111.7km。

全体所要時間: 3時間55分。移動時間: 2時間46分。停止時間: 1時間09分。

移動平均速度: 3.49km/h。全体平均速度: 2.45km/h。









中田さんは、中央線が人身事故で不通となったため、残念ながら参加できませんでした。JR相模原駅南口バス停5番乗り場を予定の9時5分を30分遅らせ9時35分の水郷田名行きに乗る。水郷田名バス停に10時03分に着き、バス停にはトイレがある。歩く準備をして10時10分に出発。



ここ水郷田名は、かつて「田名村久所（ぐぞ）」という地名で、江戸時代、大山詣りが盛んとなり、大山道と言われる街道は12本あったと言われている。この久所（ぐぞ）は相模川沿いにあるその大山詣りの渡河点の宿場町として賑わっていた。

鉄道が出来、大山詣りが衰退したことと、相模原市が陸軍関係の施設が建設され軍都となったこと、戦後は、鮎釣りで賑わい、街は宿場町から歓楽街へと変貌した。

「水郷田名」の名称は、昭和10年(1935)、「鮎の水郷田名」として、横浜貿易新報社（現・神奈川新聞）による、県下45佳選に当選した。その後、昭和58年(1983)久所のたんぼに水郷田名団地が出来たことから、久所も水郷田名に改名した。

割烹旅館旭屋の通りを左折し、30m程先で右折し、右・左と曲がり130m程のヤマザキショップを左折するとこの辺りが70年代まで栄えた田名の花街である。今はその跡は全く見られない。



花街跡の道を250m程進んだ右側の鳥居がある広場の奥に、右「大鷲神社」、左「白子園稲荷」がある。



広場の隣の「新堀用水路（鳥山用水）」が流れており、傍らに水郷田名案内図がある。案内図には鳥山用水（新堀）の説明文が記されている。



#### 鳥山（からすやま）用水（新堀）

この水路は、「鳥山用水」といって、今から約130年前に田名村の領主下野国（いまの栃木県）鳥山藩の大久保氏が、久所（ぐぞ）河原へ用水を引いて、水田を広げるため、滝の宗祐寺近くの山王崖から隧道（トンネル）を掘り、相模川の水を引き入れてつくったものです。

これをつくるためには、地元農民の血のにじむ努力と、500両近い大金が掛けられました。

その後、江成久兵衛の努力や、大正二年の第二期工事以来引き続いた改修により「新堀」と呼ばれるようになり、永い年月、久所や望地（もうち）の水田を潤し私たちの生活を支えてきました。

ところが、世の中の移り変わりにより水田もなくなり、用水としての使命がうすれ、水路の水も汚れ、魚もなくなってきました。（中略）この水路を昔のようにきれいな水路に戻し、水郷田名の名にふさわしい水路として守っていこうというみんなの願いから、今回の大改修が完成し、魚の住めるきれいな水路に生まれ変わりました。（後略）

平成三年三月 新堀用水を愛する会

新堀を過ぎると左にカーブして相模川の堤防の上に出る。



河川敷は公園になっていて、「泳げ鯉のぼり 相模川会場」である。堤防の道は県道63号線にぶつかり、右折すると「高田橋」で相模川を渡ることになる。(10:22) 橋の袂に「鮎供養塔」「久所(ぐぞ)の渡し」の石柱、石柱には『このあたりには対岸の小沢とを結ぶ渡し場がありました。おもに大山参りの人々がよく利用したため、久所(ぐぞ)はその宿場としてにぎわいました。』とある。そのほか、「神奈川県新八景 水郷田名」碑、「橋100選 高田橋(高田橋変遷説明)」、橋の説明では、橋名の由来は『大正13年架橋時に相模川右岸側の地名愛甲郡高峰村と左岸側の地名高座郡田名村の地名の頭文字を取り「高田橋」と命名された。』傍らに相模原市市長「篠崎 隆先生」胸像などがある。

高田橋：高田橋が最初に架けられたのは大正13年に着工、大正14(1924)年12月15日。この時は木製で、わずか一年足らずで流失してしまい、仮の橋を造った。昭和4(1929)年8月25日に鉄製の橋が二代目として完成した。現在の橋は三代目で昭和50年に完成。



鮎供養塔



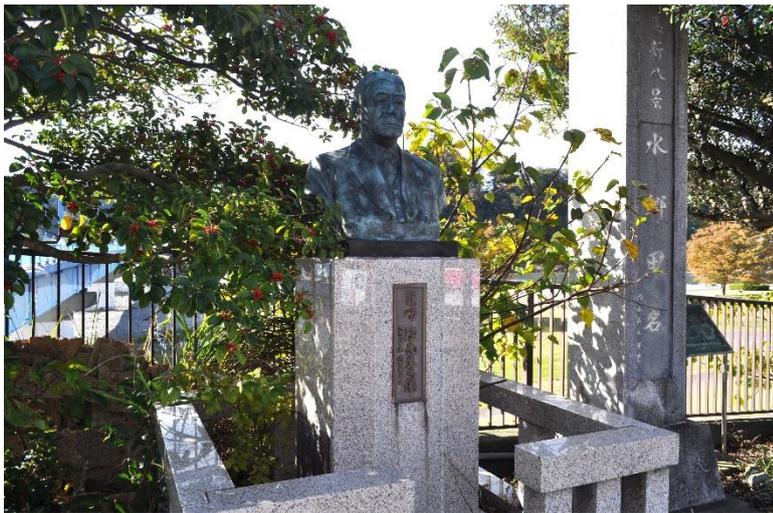
「久所の渡し」石柱



「神奈川県新八景 水郷田名」碑



「橋100選 高田橋 (高田橋変遷説明)」



相模原市市長「篠崎 隆先生」胸像



高田橋



相模川

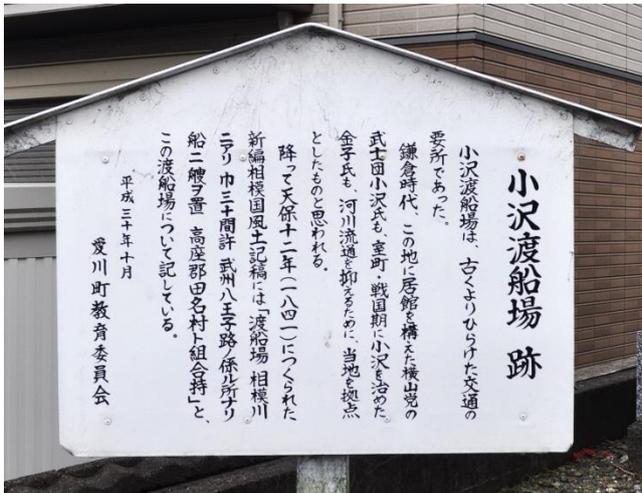


高田橋から見た小沢城址



相模川

相模川を高田橋で渡る愛川町に入る（10：30）。渡ると直進が県道54号線、左右が県道511号線で、左折すると「小沢渡船場跡」の説明板がある。



左折した相模川沿いの道ははK511とK63で、130m程でK63はK511と分かれ右折する。右角に地蔵尊と不明の石柱がたたずんでいる。



地蔵尊



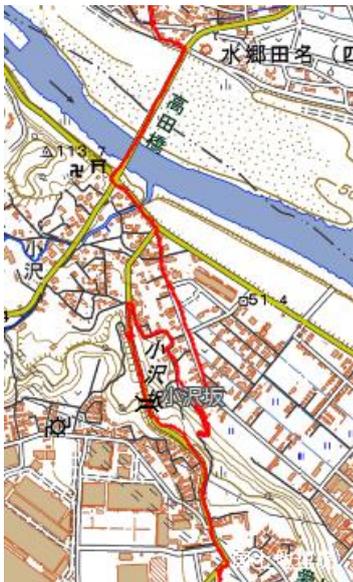
新道県道63号線、左へ入る道が旧街道

ここで、新道（県道63号線）と旧街道に分かれる。

新道県道63号線と県道511号線との間の道を斜めに入り、平らな道を400m程進むとY字路があり、右の道に行く。



道は直ぐに右折して登り始める。40m程で突き当たるので左折し急坂を上る。この急坂が本来の「小沢坂」である。これから曲がりくねって上る坂道が小沢坂である。だが、すぐに「通行禁止」の表示板と柵があった。なんとか高をくくって滑りやすい坂を曲がりながら上っていったが、もうすぐ坂を登り切ると思われるところで複数の倒木で道は全く閉ざされていた。しかたなく滑る下り坂をそろそろと下り、なんとか県道63号線の坂の途中に出た。(10:57)



旧街道小沢坂



この先、左に曲がった所で倒木の為先に進めず、引き返す。

新道に先に、「小沢（こさわ）城址」の説明板と「小沢坂（こさわがき）」の石柱がある。説明板の傍らで小休憩をとる。（10：59～11：05）



「小沢（こさわ）城址」：城址はこの城坂の上方台地にある。中津原台地の東北隅突端の地形を利用して要害とした山城で、室町時代初期の築城といわれている。城域は5700㎡ほどの広さをもっていた。

城主は金子掃部助（かねこかもんのすけ）。山ノ内上杉氏に従っていた長尾景仲に連なる長尾景春の家臣であった。しかるに文明九年（1477）一月、扇ヶ谷上杉氏の執事太田道灌によって攻撃され、四月十八日に落した。

いま、遺構として城址の南辺に濠跡をとどめるほか、城坂、城の内、馬つくろい場などの地名がある。また、城主一族の落城悲話が伝説として残っている。



「小沢坂（こさわがき）」：中津原台地上段の中津角田境と下段の小沢を結ぶ坂。道路整備前は屈曲の多い道で大山道とも呼ばれました。

今日は寄っていないが、小沢城址について調べたことを記載する。

#### 小沢城址



#### 城址内説明板

##### 小沢（こさわ）城址

小沢城はこの辺り、中津原台地の東北隅突端の地形を利用して要害とした山城で、室町時代初期の築城といわれる。城域は5,700平方メートルほどの広さをもっている。

城主は金子掃部助（かねこかもんのすけ）、山ノ内上杉氏に従っていた長尾景仲に連なる長尾景春の家臣であった。しかるに文明九年（1477）一月、扇谷上杉氏の執事

太田道灌によって攻撃され、四月十八日に落城した。

いま、遺構として城址の南辺に壕跡をとどめるほか、城坂、城の内、馬つくろい場などの地名がある。また、城主一族の落城悲話が伝説として残っている。

昭和五十七年三月一日 愛川町教育委員会



主郭



土塁



合流点の手前、法面の途中に「馬頭観音」他が祀られている。緩やかにはな  
ったが、まだ登り坂は続き、合流点から180m程、上り切った所に丁字交差点がある。(11:18)



直進が国道468号線で、右への道が県道63号線。丁字交差点の東南側に渡ると右側に墓地があり南  
角に「大塚の地蔵尊」が祀られていて、横に説明板がある。

#### 大塚の地蔵尊と地蔵信仰

この地蔵尊の由来、彫像年代は不明だが大塚のお地蔵様として人々に親しまれ信仰を集めて来た。

村の入口にあって長い歳月を道祖神としての性格をもつお地蔵様は悪霊が村に入ってくることを防ぐと信じられ、又、行路の安全を願って野の仏とし茲に造立されたものであろう。

正しくは、地蔵菩薩という。

悪業を犯し六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）輪回転する衆生を救済する大悲大慈の菩薩として平安中期から信仰が盛んになった。

お地蔵様を梵語で「クシテイ ガルブ」といい、クシテイは大地、ガルブは胎蔵の意で胎は母胎を表しているところから子宝・子授・子育て・安産など女性にとっても縁の深い仏様としての信仰がさかんである。



地蔵尊から左への道が旧街道で、墓地の端に「大山道」石柱と自然石の「道標」がある。

～おおやまみち～

「この道は相模原方面から当地を経て大山に至る古道の一つである。」

自然石の道標

「ひがしゑち（み）ち みなみ大山道 にしみませ道 き（た）八王子みち」とあり、「ゑち」は依知、「みませ」は三増。



旧街道を道なりに600m程進むと春日通りに合流する。ここから旧街道は消滅するので住宅地を右

左と進むことになるが、歩行距離が多くなるので今日は春日通りを進み春日台交番の先を右折する。最初の左の道に入り、35m程の突き当りを右折。50m程の右折してから2本目の道を左へ進む。ここで旧街道となる。

70m程の変則十字路は直進する。600m程（太い通りを2本ほど横切った）で街道は右に曲がり、200m程で墓地にぶつかるので左折。



30m強の公園のあるY字路は右に進む。210m程でバス通りにでるので、横断歩道を渡って直進する。30m程のY字路は左へ進む。100m程で一本松交差点脇に出る（12:00）ので県道63号線を南側に渡る。



県道63号線を30m弱で右への道に入り、左にカーブして、県道63号線の本西の道・旧街道を進む。旧街道を500mほど進んだ左側県道側にガストがあるので入って昼食とする。（12:08～12:57）

ガストを出て旧街道を130mほど進んだ突き当りの変則交差点の左角に「石仏」と「大山道」石柱がある。

「大山道石柱」には、『この道は六倉からこの地を過ぎ下荻野を経て大山に至る古道の一部である。』





直進し、150m程の左側駐車場のカーブミラーのある所を右折。突き当りを左折、また突き当りを右折、次の突き当りを左折する。直角のベンチの手前に「中津半繩の石仏群」があり、解説板がある。  
(13:08~11)



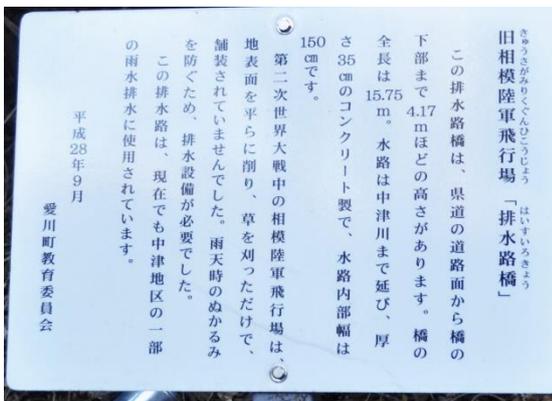
### 「中津半繩 辻の神仏」

『辻（岐路）は、それぞれの地域への分かれ道であるため、村や集落（最寄）の境界となることが多い。そのうえ、この境い目は、民間信仰において、季節ごとに訪れる神々を迎え送る場所でもあり、村落に入ってくる悪霊や邪鬼を追い払うところでもあった。そのため、いつしか、祭りの場所としての特殊な考え方が生じ、いろいろな神仏をここに祀るようになった。

この辻にあるのは、「双体道祖神像」「馬頭観世音像」三体、「賽神」「庚申」「不動明王像兼道標」の各塔祠である。 昭和五十九年二月 愛川町教育委員会』



左折して進むと、先方上にコンクリート製の二本の橋が架かっている信号十字路がある。十字路の手前右に橋の説明板がある。(13:15) この橋は、「旧相模陸軍飛行場の排水路橋」とのこと。



### 旧相模陸軍飛行場「排水路橋」

『この排水路橋は、県道の道路面から橋の下部まで4.17mほどの高さがあります。橋の全長は15.75m。水路は中津川まで延び、厚さ35cmのコンクリート製で、水路内部幅は150cmです。』

第二次世界大戦中の相模陸軍飛行場は、地表面を平に削り、草を刈っただけで、舗装されていませんでした。雨天時のぬかるみを防ぐため、排水設備が必要

でした。

この排水路は、現在でも中津地区の一部の雨水排水に使用されています。

平成28年9月 愛川町教育委員会』



交差点は左へ上り、右へ下りとなる県道63号線である。この坂を「坂本坂」という。県道を渡り右折すると、県道の左脇に細い下り道がある。この道が旧街道である。脇に「坂本坂」の石柱がある。



### 「坂本坂」

『～さかもとさか～ 神明前から坂本へ下る坂をいう。左が旧道で、右が新道。新道は大正五年に開通、今は県道となっている。』





旧道の急坂を下ると左に急角度で曲がり、右カーブして下ると県道に合流する。更に下ると坂本バス停がある。左に大きくカーブして、中津川左岸の堤防上に出る。



堤防上を進むと右に橋がある交差点に出る。橋の少し手前から厚木市に入る。その先の左側から来る道が八王子道でここで東ルートと合流する。



計画では、あつぎ郷土博物館に寄る予定であったが、第16回で寄ることが出来るので今回は省略することにし、今日のゴールリコー前バス停へ向かう。

(13:36) 才戸橋を渡り、直ぐ右折するのが旧街道で、左に松羅公園があり(13:40)、公園入口に「道標」と「才戸の渡し」石柱がある。





「道標」には、『寛政十二年(1800)』『南 あつぎみち』『西 大山道』『東 八王子道』とあり、「才戸の渡し」石柱には、『北は武蔵国八王子から南は大住郡矢名村（現秦野市）をつなぐ矢名街道で、この道には、上依知とこの二ヶ所に渡しがあり、江戸時代には武蔵国からの大山参詣道としてたいへんなにぎわいを見せた。』とある。





公園を左カーブして登りながら進むと県道63号線に合流する。



信号を渡り、右折し県道63号線の坂を上る。左カーブしてして約720m程の鳶尾東入口交差点を直

進し、270m程進むと今日の終点「リコー前バス停」に14時04分に着く。



すぐ来たバスに乗り、本厚木駅に向かう。

今日の坂の標高差

小沢坂：高田橋—大塚地藏尊 = 約60m（小沢城比高）

坂本坂：排水路橋十字路—坂本バス停 = 約30m

才戸の坂：才戸橋—台地上 = 約20m

以上